

業務改善とICT

渡里修治 [わたり・しゅうじ]

介護老人保健施設さざんか（島根県）
施設長



はじめに

少子高齢化が進行する昨今、介護業界においても人材不足が深刻な課題となっています。そのようななか、「生産性向上」という言葉が介護現場でも聞かれるようになりました。介護業界における「生産性向上」とは、業務の効率化を図り、利用者に関わる時間をいかに増やすかという点にあると考えます。ここでは、当施設における取り組みについてご紹介いたします。

島根県西部に位置する浜田市は、2005年10月1日に旧浜田市・金城町・旭町・弥栄村・三隅町の5市町村が合併し、新たに「浜田市」として誕生しました。県内屈指の漁港があり、海や山などの美しい自然に恵まれているので、夏はマリンスポーツ、冬はスキーといった四季折々の楽しみがあります。また、日本遺産に認定された石見神楽や、シロイルカのバブルリングで知られる「しまね海洋館アクアス」など、観光資源にも恵まれています。2025年10月1日現在の人口は47,707人、高齢化率は38.84%です。

当法人の歩みは、1951年から旧浜田市内の無床診療所として外来診療・訪問診療を続けるなかで、在宅療養者の受け皿が十分でないという現状に直面したことから始まりました。1987年12月には浜田市金城町に有床診療所を開設し、同時に医療法人社団沖田内科医院を設立。その後、高齢化の進行に伴い在宅療養支援の必要性が高まったことを受け、1993年9月に診療所併設型（金城沖田医院）の老健施設「さざんか」を開設しました。

「温かい介護とリハビリテーションによって、在宅支援・在宅復帰を援助します」を運営理念とし、人間らしさの尊重、地域との交流と貢献、持続可能な

健康経営・健全経営を基本方針に掲げています。多職種が連携し、利用者の尊厳を守りながら、安全に配慮した総合的な援助を実践しています。

1993年の開設当初は入所定員50名でしたが、2012年11月に100名へ増床。現在は入所定員97名（短期入所は空床利用）、通所リハビリ定員35名で運営しており、訪問リハビリも実施しています。施設類型は「超強化型」です。

また、2001年11月には認知症対応型共同生活介護事業所「グループホームさくら」（2ユニット）を開設しました。

地域貢献事業としては、「カフェいっぷく」と「青色防犯パトロール事業」を実施しています。「カフェいっぷく」は毎月第3土曜日の午前10時から約1時間、地域の方々にご参加いただき、施設の医師・リハビリ専門職・栄養士などが医療・リハビリ・体操・料理などに関する講話を行っています。現在は参加者数が伸び悩んでいる状況ですが、継続的な地域交流の場として取り組みを続けています。

業務改善とICTの取り組み

当施設では、ワイズマンの介護記録ソフト「すぐろく」を2022年3月、眠りスキャンを2023年1月、インカムを2024年4月に導入し、現在「生産性向上推進体制加算II」を取得しています。

当施設は30年以上にわたり手書きで記録を行ってきたため、ICT導入に際しては一定の混乱が懸念されました。実際、現在も手書きのメモをもとにタブレットへ入力するという二重の手間が一部で発生しています。

眠りスキャンの導入により、利用者の睡眠・覚醒状